

# ビジネス日本語教育における シニアサポーター活動の継続と課題 —シニアサポーターの視点から

堀井恵子・種村政男（武蔵野大学）

【キーワード】シニアサポーター，ビジネス日本語教育，市民の社会参加，継続

## 1. 研究背景

ビジネス日本語教育において、オーセンティックなビジネス現場との結びつきは欠かせないが、実際は、ビジネス現場は忙しく、継続的な連携を取ることが難しい。そこで、勤務校では2008年からビジネス日本語教育にシニアサポーター(以下、SS)を導入している。

SS導入の目的は、①学習者（留学生）が日本語を使って主体的/自律的に自己実現するために学習者の中から可能性を引き出し、そして、サポートする、②成人の日本人とのインターアクションを増やし、異文化調整能力を育成する、③日本語教師が行う際に不足しがちなビジネス現場の事情や企業文化についての知識と対応能力を補う、であった。

SSの要件としては、2008年・2009年に大学の生涯学習講座として開講した「大学の留学生をサポートするボランティアのための講座」、2008年—2010年の文化庁事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業「仕事をする外国人をサポートするボランティア育成講座」を受講していることとし、受講生延べ70名の内、武蔵野大学シニアサポーターとして登録した者、26名を対象に大学院ビジネス日本語コースでの活動を始めた。

## 2. 先行研究

堀井(2015)ではPBL授業におけるSS活動について、学習者の振り返り記述から、SS活動に関する学習者の気づき・学びを分析、PBLにおけるSSの意義として以下の5つのカテゴリーを抽出している。

①ビジネス(社会)経験（自分たちの非現実なアイデアがアドバイスによって現実的なものになった）、②リアリティのあるコミュニケーション相手（ビジネス経験豊かな日本人と話す機会は今までなかった、シニアの方なのでできるだけ敬語を使うようにした）、③日本人の視点の理解(企画が日本の文化に合うかどうかの視点が得られた)、④創生(SSと私たちの考え方を合わせることで良いアイデアが生まれた)、⑤サポート・スキャフォールディング（安心感がありました）。

## 3. 研究目的

本研究では、SSに質問紙調査を行い、SSの側からみたSS活動の意義、課題について探り、SS活動が継続してきた要因と今後の課題を探ることを目的としている。

#### 4. 調査概要

質問紙調査実施時期は 2020 年 1 月 10～20 日、回答者はシニアサポーター6 名（男性 5 名・女性 1 名）で、年齢は 60-70 歳 3 名、71 歳-75 歳 2 名、76 歳以上 1 名、経験年数は 7 年 3 名、6 年 1 名、5 年 1 名、4 年 1 名で平均 6.0 年である。

#### 5. 結果

調査結果から以下が得られた。

①自分の経験を生かせる喜び（会社や社会経験を活かせ社会参加しているという自負と安心感を持っている）。②留学生と接することで気づき・刺激を得、エネルギーがわく（自分とは年齢差が 50 年で外国からの留学生であることに起因すると思われるが、フィーリング、考え方、生活態度・服装・生活感覚等々が自分とは異なることが単純に面白く、また考えさせられることも多い。授業のテーマに関係した、また、留学生の出身国のニュース・記事に注意するようになり、話題が豊富になった。③生活の張り（毎週授業に参加し、レポートを書くことで、定年後の日常生活にリズム・アクセントができることが良かった）。④シニアサポーター同士の仲間の楽しさ（各人の過去の職種や人生経験が全く異なる人たちなので話をして面白く興味が尽きない）。⑤課題（喋り過ぎないよう意識はしているものの、結果喋りすぎてしまう時もあり気をつけなければいけないと反省しています。母語で話し合っている時どのタイミングで日本語への転換を促すか難しい。IT 化の速さ・高度化に焦りを感じる。長年続けているので SS の若返りが必要では）。

あわせて、コーディネーターからは、①SS/ 大学（教員）/ 留学生の 3 者が利点を感じられること、特に SS にとっては教師・留学生からの「SS がいて良かった」の反応（FB）が大事②教員との目的や価値観の共有：期初のオリエンテーション・ミーティングの重視、期末の振り返りミーティングで教員との意見交換 ③今後に向けての課題：SS 数の増員強化（できれば 60 歳代の新規加入）、教科内容の高度化への SS の対応が挙げられている。

#### 6. 考察

このような活動は継続が難しいと思われるが、SS, 留学生、教員の三方がそれぞれのメリットを感じられている点が継続の要因と思われる。「市民の社会参加」と「留学生の学び」が結びつく多文化共生にもつながる場という意味でも SS 活動の意義を認識することができた。コーディネーターの役割も重要である。

#### 7. 課題

SS 活動において、留学生、SS の視点からの調査を行ってきた。今後は、教員側からの意義と課題の調査も試みたい。

#### 【参考文献】

堀井恵子(2015)「ビジネス日本語教育の課題再考—コース・デザインと PBL, シニアサポーター活用—」『ビジネス日本語教育の展開と課題』, pp. 125-142, ココ出版 他